

東京教区時報

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

第1166号
2010年5月23日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 英 久子

《奉献先から》 葛飾学園(サン・ピエール と保育園)

東京メトロ綾瀬駅と「こち亀(昨年TVロケあり)」で有名な亀有駅の間にある、94年目を迎える定員230名の0歳から学齢までの保育園。7時から20時までキリスト教を基礎とした保育を実施。障がい児(4名)、緊急一時、外国人(約20名)も多く、またアレルギー児対応食等子どもの発達に細かく対応し、保護者(特に女性)の就労の保障と子育て支援に微力ながら貢献。

隣接のケアハウスサンピエール、デイサービスセンターと園児の交流も盛ん。ケアハウスは設立8周年を迎え

聖公会信徒・聖職のリタイア後の充実した生活空間と時間を提供している。
(理事長・園長 山口千晴)

◇聖信受領

5月16日 立教諸聖徒礼拝堂
▽田口綾子▽片野由利子▽小林千恵子▽太田定子(立教諸聖徒)

今週・来週の予定

5月23日～6月5日

- 23(日) 聖霊降臨日
主教巡回
大森聖アグネス教会
- 24(月) ハラスメント防止委員会
- 25(火) 銀座朝教会
日本聖公会総会(～27日)
- 28(金) 正義と平和協議会運営委員会
- 30(日) 三位一体主日・聖霊降臨後第1主日
主教巡回
聖マーガレット教会
城南G教会協議会
下町G教会協議会
- 31(月) 分担金制度特別委員会
6月
3(木) 教財務サービス委員会

5月16日 主教座聖堂
▽日高夏希(立教女学院聖マーガレット)▽赤松朋実▽小林瑞希▽赤松亜実▽小林睦希(聖十字)▽長谷川卓(神田)▽平島敏夫(聖パウロ)▽潮田邦夫(聖アンデレ)▽今里宏▽田口淳有(聖ルカ)▽太田英世▽柘植尚子▽柘植光月▽後藤桂子(目白)

《掲載記事転用の場合は事前連絡のこと》

「坂の上の雲」や「坂本竜馬」のドラマが人気を博しているけれど、明治維新という歴史の大きなうねりの中で、様々な物語があったことに気付かされる。歴史の大事件に人々が巻き込まれる時、それぞれの人生そのものが、それぞれの物語を生み出す。歴史年表では、ただ一行で記されるべきことは、実は人々の人生に重要な意味を持つべきことであるのだ。

聖霊降臨のべきことも、そういう大事件であったのだと思う。イエス・キリストの復活を体験した人々の人生そのものが、歴史的大事件に巻き込まれたのと同じ、大きな物語を生んだに違いない。

《ペンテコステ・メッセージ》

聖霊降臨のうねり

主 教 植 田 仁 太 郎

きことが起こり、それを体験した人々に、それぞれの人生を大転換する物語が起こったのだと思われる。それら、聖霊降臨という大事件に巻き込まれた、そういう歴史の大きなうねりの内外に居た人々の物語が、使徒言行録の編者によって、ひとつの典型的な物語としてまとめられたのだろう。

同じような体験が、パルティアでも、メディアでも……メソポタミアでも起こったのだろうか。

教会という共同体が生まれ、人々がそれまで体験したことのない人生の喜びと恵みを感じる歩みを始めることができた。それが地中海世界のあちこちに生まれていった。同じことが、2千年にわたって体験され、

世界の隅々に教会が生まれることになった。聖霊降臨の歴史のうねりは、まだ続いている。
(東京教区主教)

常置委員会報告(5月11日)

*6月主教会(濟州島)は一部大韓聖公会主教会に合流、司祭試験関連事項など、主教報告。

*教区合同聖信式、教区財務諸表等、主教チャプレン・各主事等の諸報告を了承。

*特定非営利活動法人・聖公会生野センター理事派遣要請の件につき協議。

*臨時教区会の書記2師を任命。

*教区幼稚園(八王子・諸聖徒)管理運営規程を最終確認。

*その他

信仰と生活委員会報告(5月13日)

*宣教主事報告。

*各教会グループ・諸委員会・自主活動グループ等の報告。

*教区費分担金検討特別委員会(当委員会1名欠員)は宮崎光司

祭(長)が引き続き出席する。

*宣教について考える材料として150周年記念聖餐式説教について学びのときをもった。ローワン・ウィリアムズ主教の説教内容を教区全体に分ち合うための学びの会やリトリートなどの可能性について協議した。

*子ども聖歌集編纂へ向け、プロジェクト担当者を決めた。

*合同委員会開催に向けて協議。

*中高生キャンプ開催へむけて、教区の関わりを確認し、COAとの協力のため、担当者を決めて話し合いを持つこととした。

*その他

▽日本聖公会第58(定期)総

会 2年ごとの開催で、今週25日(火)〜27日(木)、日本聖公会センター(聖バルナバ教会)で。

東京教区からは植田主教、聖職・

信徒代議員各2人(笹森田鶴・前田良彦両司祭、松田正人・山田益男両氏)が出席予定。(東京教区総会代議員団発行による総会詳細が配布されている)。

▽女性が教会を考える会・東京による「日本聖公会総会前夜の祈りの会」 明24日(月) 18時半

〜20時半。東京諸聖徒教会。「教会の意思決定の中に、もっと多くの女性たちの声を」。話||日本聖公会女性デスク・木川田道子(京都教区)。照会11042(336)8524。

「春のバザー」2

▽池袋||5月30日(日) 11時〜14時半 ▽聖マルチン・聖マルコ||12時〜15時

《掲載記事転用の場合は事前連絡のこと》

「クローズアップ」49
新しい聖地旅行

2004年、植田主教がエルサレム教区を公式訪問されてから、エルサレム教区と東京教区との交流が再開し、東京教区に神崎雄二司祭を中心に「エルサレム教区協働委員会」が設置されました。

「新しい聖地旅行」は、その話し合いの中で生まれたプログラムです。過去の聖地旅行は、物理的にイエス様にゆかりのある場所を訪問するものでした。エルサレム協働委員会で話し合ったのは、「イエスの足跡をたどる旅」は、本当にこれでよいのだろうかという疑問でした。エルサレム教区には、イスラエ

ルによる占領政策で苦しむ多くの人々がいます。家を追い払われて難民キャンプで暮らす人々が4百万人を超えています。壁と検問所で通行の自由を奪われ、生活が分断されています。

「イエス様の足跡をたどる」という事は、イエス様が今、此処におられたらどうなさるか、何を語られるかを考えながら、現実に向き合ってみる事ではないか? という考えで始まり、今年3回目を実施したことになります。エルサレム教区の教会を訪ね、共に礼拝を捧げます。今年、ホテルだけでなく一般信徒のご家庭にも泊めて頂いて交流しました。「イスラエル建国前は、ユダヤ人も、パレスチ

ナ人も、仲良く共存していました。今の紛争は宗教問題ではなくて、政治問題です」という言葉をあちこちでお聞きしました。厳しい検問所や分離壁を見る時、イエスのたどられた道も、違って見えてきます。2週間の旅では問題の一部を垣間見るだけかも知れません。しかし、この旅を重ねる中で、パレスチナの人々の苦しみを知り、「あなた達の事を覚えていつも祈っていますよ」というメッセージを伝え、励まし合い、共に御足の跡をたどって生きる事の大切さを再認識する旅にして行きたいものです。

エルサレム教区協働委員会委員
岩浅明子